

2013年度は、薬剤師5名、事務員3名、計8名のスタッフでスタートしたが、年度途中で事務1名が退職したため、補充を行った。本来薬剤師6名体制だが、1名欠員と、薬剤師確保が厳しい状況であったが、9月より薬剤師1名を確保することができ念願の6名体制を構築することができた。ただ、半数は経験の浅いスタッフであり、特に下半期は育成に重点をおき、2014年度に充実した体制が構築できるよう活動した1年であった。

1. 人材育成

薬剤師の採用のみならず、事務スタッフの採用もあり、マンパワーに限れば満足できる体制を構築できたが、専門性を求められる薬局において、一人前として業務を任せられるようになるには、やはり時間、経験が必要となる。そこで、ベテラン薬剤師・事務スタッフが中心となり、日常業務を動かしながら継続的に指導できる体制を構築し、より多くの経験を積ませることで、自ら考え、行動できるよう育成に取り組んだ。その結果、若手薬剤師も年度末には病棟を一部任せられるレベルにまで成長できた。

2. 病棟業務

病棟においては、限られた時間内での活動であるため、チーム医療を常に意識し、病棟スタッフとの連携をうまく行いながら、患者さんに安心して安全な医療を提供できるよう努めた。特に、昨今は持ち込み薬が多く、その鑑別にかかる時間がますます増えてきている。しかしながら、医薬品の専門家として安全管理の重要性を認識し、可能な限りタイムリーに鑑別報告書を作成できるよう対応し、安全管理のみならず、持参薬の有効活用にも貢献できた。また、医師の処方支援をはじめ、カルテ記録等、一元化された電子カルテデータの有効活用を推進。NST回診、ICT回診、緩和ケア回診、褥創回診、DM教室等々へも参加し、求められているチーム医療に貢献できたものと考えている。

	2013年度	2012年度
薬剤鑑別 (件)	938	831

3. 外来対応

外来調剤は2013年度も薬局の中心業務であった。特に高齢者の多い地域でもあり、薬の一包化調剤も増え業務量は増大している。このような状況でも、電子カルテを活用しながら、患者さんが理解しやすいような言葉での服薬指導を心がけ、常に対話を意識し信頼関係の構築に努めることができたと考えている。また、新規にお薬手帳を配布し、有効活用に努めた。

	2013年度	2012年度
一包化調剤 (外来) (件)	2,489	2,388

4. がん化学療法における抗がん剤の無菌調製

無菌調製を開始して3年目になるが、若手薬剤師も研修等を行い、全薬剤師が従事できる体制を構築できた。1年を通して、入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行い、医師の業務負担軽減に大いに貢献できたと考えている。今後は、年度末に完成した外来化学療法室を有効活用し、患者さんへの薬剤管理指導が適正に行えるよう体制強化に努める。また、中心静脈栄養の無菌調製も実施できるよう体制構築を行っている。

	2013年度	2012年度
抗がん剤無菌調製 (件)	311	346

5. 看護師への「医薬品ミニレクチャー」と自己啓発

2013年度も、薬剤師が病棟および外来に出向き看護師に対してスモールグループで医薬品に関するミニレクチャーを実施(年5回実施)。各薬剤師が作成した資料もデータベース化し、いつでもどこでも閲覧できるよう構築。また、これまで宇城地区(東方面)での研修会には数多く参加し薬剤師の連携を強化してきたが、今回、上天草地区(西方面)との連携強化を図る目的で、医師にも協力頂き症例検討会を開催することができた。

6. 医薬品情報データベースの有効活用

医薬品情報データベースに、医薬品ミニレクチャーをはじめ、看護師向け情報、安全性情報、がん化学療法レジメン、研修会案内等掲載し、情報の共有化・一元化に努めた。

2013年度は、院長作成「脳の話」シリーズも掲載し、医師、看護師、薬剤師をはじめスタッフが、いつでも、どこからでも医薬品に関する情報を確認できるよう随時の改訂・更新を行った。今後も安全な医薬品の提供に、多方面からサポートできるよう取り組んでいく。

7. 医薬品管理

2013年度も、在庫管理システムを効率よく活用しながら適正な在庫管理に努めるとともに、期限切れ医薬品の低減にも力を注いだ。

2014年度は、人員確保と人材育成に努め、これからも病院全体の安全管理に貢献できるよう取り組んで行く。